

令和4年度第2回

富士見市史跡水子貝塚保存整備委員会

議事録

日 時	令和4年11月9日（水）		開会 午後2時00分				閉会 午後4時00分
場 所	富士見市立水子貝塚資料館						
出席者	委 員	阿部委員	岩村委員	佐々木委員	大島委員	佐々木委員	
		○	○	○	○	○	
		井上委員	鈴木委員	古澤委員			
		○	○				
	オブザーバー	埼玉県教育局文化資源課 尾崎主事					
事務局	水子貝塚資料館 和田、隈本、齊藤						
公開・非公開	公開（傍聴者なし）						
議 題	<ul style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議題 <ul style="list-style-type: none"> (1) 史跡水子貝塚保存活用計画について (2) その他 3 その他 4 閉会 						

議 事 内 容

1 開会

2 議題

(1) 史跡水子貝塚保存活用計画について

委員長 事務局から説明を求める。

事務局 (資料に基づき説明)

委員長 質疑等があれば伺いたい。

委 員 文化財の活用、デジタル化について、児童生徒には一人一台端末を支給しているのので、この先デジタルコンテンツの整備が必要となる。現地へ来られない児童生徒のバーチャル見学、学習ノートのデジタルコンテンツ化などデジタルサービスが資料館の課題である。

委 員 水子貝塚を web で検索すると富士見市の HP がでてくるが、キッズコーナーの情報量が少ないので探求的な学びを充実するべき。デジタルコンテンツは現地に行かなくてもよいのがメリットで、間口が広がり最終的に来てもらえるように学習のツールとして活用する。

委 員 市民アンケートの結果では、公園には来るが施設の見学が少ない。現地を見学したくなるようなデジタルコンテンツが必要である。西東京市の下野谷遺跡では、スマホやタブレットで見る AR や VR がある。AR は現地で鳥の視点からみる、星をみる、縄文人がいるなど多様な活用をしている

事務局 学校だけではなく、様々な世代へ向けたデジタルコンテンツをつくる方針としたい。

委 員 例えば子ども向け、大人向け、VR と AR を使い分けるなど、興味の対象に合わせたプログラムを複数作ると良い。

委 員 人骨の顔を形質人類学的に復元することで、子どもたちが興味をもつなど、出土資料の再分析を行い活用することも必要である。土器の圧痕分析など、ここでしかできないものを増やし、大学・地域・子どもなどと合同で研究を進める場となれば人は集まる。

委 員 植物、動物、土器、石器などの資料の分析や研究で、何ができるかを議論し、優先順位をつけて実現できそうなものから行い、研究した成果を一般にわかりやすく伝えることが活用である。

事務局 今後の検討課題としたい。

委 員 樹木の保存について、縄文の植生に戻すために残す基準はどうするのか。整理し、ゾーニングして、クリやクルミを植えるなど、エリア分けして植栽していく必要がある。

事務局 縄文の森を再現するために、伐採する樹木を慎重に選定し、エリアを決めクリなどを集中的に植栽し、エゴマやマメを栽培する畑をつくる方針である。

委 員 水子貝塚は縄文前期の奥東京湾の植生が唯一分かるかもしれない遺跡である。再度ボーリング調査し試料を採取することも検討してほしい。

委 員 環状集落というのは、谷状に窪んだ地形の周囲に住居を作った結果である。基本的に中央部の低い部分には居住せず、周囲の高い部分に住居を建築している。ところが水子貝塚は中央が平坦で谷

- 状となっていない。縄文人が、中央が広場となるように意識的に集落を営んだことになる。春日部市の神明貝塚と地形が似ているので、地質学や地学も応用して連携して研究を進めるとよい。
- 事務局 今後の研究課題としたい。
- 委員 現行では長期的に取り組める学習、体験、実験などのプログラムがないので、恒常的に市民が関われるものがあるとよい。
- 委員 千葉市の加曽利貝塚では、土器で貝を煮て食べるという実験なども行っているので、参考にしたらよい。
- 委員 他の教科との連携ということで、たとえば地域の歴史を英語で児童生徒に話してみてもらうというのはどうであろうか。テキストは大学生につくってもらおうというのもよい。
- 委員 文化財と語学との連携ということであれば、学校向けの学習プログラムを作成するなどデジタルの活用が有効ではないか。
- 委員 東北地方の史跡では、小学生による英語ガイドがこの秋から開始されている。中高生になってボランティアとして帰ってくる子もいて、今後、史跡公園ではこうした取り組みも必要である。
- 事務局 英語や中国語のパンフレットを設置している施設もあることから外国語の説明パネルの設置やデジタルコンテンツも検討する。
- 委員 樹木の伐採時期や伐採後の活用はどう考えているのか。
- 委員 ベンチや住居の柱に利用するのはどうか。葉は草木染めに使用することもできる。
- 事務局 活用を前提としているが、具体案は未検討である。
- 委員 様々な事業において、中心となる人がいなくなると中断してしまうことがある。事業を継続的に実施していくためには、それを担える人材の育成が必要である。
- 事務局 今後の検討課題としたい。
- (2) その他
とくになし